

TOPIC 1 | 次世代太陽光、実用化に向け活発な動き

ペロブスカイト太陽電池、アモルファスシリコン太陽電池といった次世代太陽光発電の開発、住宅分野への活用を目指す動きが進んでいる。

今大きな注目を集めているのは、塗布や印刷技術で量産でき、フィルムやガラス面へ透明性を維持したまま発電が可能なペロブスカイト太陽電池だ。熱、紫外線に弱く屋根材としての商品化が難しいという課題があるが、国は「2030年を待たず早期に社会実装を目指す」とし、民間での実証実験も活発化している。

パナソニック ホールディングスはガラス建材一体型ペロブスカイト太陽電池のプロトタイプを開発し、神奈川県藤沢市のモデルハウスで実証実験を開始した。南南東に面した2階バルコニー部分に設置し、長期設置による発

電性能や耐久性などを検証する。

一方、積水化学工業は大阪本社が入居する堂島関電ビルに国内で初めてフィルム型ペロブスカイト太陽電池を実装した。発電量のモニタリングや経年変化など、長期的な品質評価に活用する。

アモルファスシリコン太陽電池は、スウェーデンハウスが、フィルム型アモルファス太陽電池を展開するF-WAVEと連携し、全国の住宅メーカーとして初となるアモルファスシリコン太陽光電池を搭載したフィルム型太陽光発電設備の実証実験を長崎県諫早市にあるモデルハウスで2023年9月から開始した。同社では、発電効率、生産コスト、量産化について研究・開発を進めていき、2025年度に本格販売を開始させたい考え。

TOPIC 2 | 平屋新商品が相次ぐ 幅広い層が支持

平屋に対するニーズの高まりを受け、住宅各社の平屋商品の発売、リニューアルが相次いでいる。

住友林業は23年10月、注文住宅の平屋商品「GRAND LIFE(グランド ライフ)」をリニューアルした。23年1月～6月の同社の契約者における平屋比率は42%、18年以降5年連続で増加。各世代のニーズに幅広く対応できる平屋を目指して今回GRAND LIFEをリニューアルした。住宅と庭の一体設計や効率的な家事動線など人気のある項目の改良に加え、屋根裏空間の有効活用なども新たに提案する。年間3000棟の受注を目指す。

積水化学工業 住宅カンパニーは、木質系住宅の新商品「グランツーユー 平屋 つながる暮らし」を23年10月14日に発売した。22年度の同社の平屋受注棟数は19年度比150%と大きく伸長。こうした背景を踏まえ、これまで培ってきたスマート技術による先進の暮らしに、さらに大屋根による深い庇を活用した空間提案を可能にする屋根



積水化学工業 住宅カンパニーが開発した木質系住宅「グランツーユー 平屋 つながる暮らし」

ユニットを新たに開発。木質系住宅ならではの高い断熱性能や耐震性を付与した。

ケイアイスター不動産のグループ会社、ケイアイネットクラウドはローコスト平屋注文住宅のフランチャイズ事業「IKI.net」(イキドットネット)を23年10月に開始した。同社は「規格型平屋注文住宅「IKI(イキ)」を販売しているが、IKIで培った注文住宅事業経営手法を基にDXサポート・IKIブランド使用権の提供・マーケティング・送客・部資材提供・建築サポートなど総合的にバックアップする。100社の加盟店獲得を目指す。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>